

～元氣の出るエピソード～

少しずつ日脚が伸びてくるころとなり、春の到来を待ちわびる季節となりました。まだまだ新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、気の抜けない時間を過ごしています。

この冬はインフルエンザワクチンに新型コロナワクチンと予防接種の機会が多くなりました。当院の外来でも多数予防接種を実施してまいりました。いくつになっても注射は嫌い・・・、苦手・・・というかたもなかなか多く見受けられましたが、そこはさすがに大人のみなさま・・・我慢して渋々予防接種を受けられていました。針を刺す前の「うわあ、嫌だなあ・・・」と顔をしかめられるご様子から一転、注射後は「終わってよかったあ」と笑顔になれる瞬間は私たちもほっと安心する瞬間です。

外来には、新型コロナウイルス感染症の流行により、他者との交流の機会が少なくなって症状が悪化したと受診をされる方が増えています。感染の流行が一刻も早く終息に向かうよう祈るばかりです。

外来主任 小藤静香

診もり短歌

筆談面接の効果
筆談を重ねた面接に
効果ありて
意思通じゆき笑顔のもどる
Dr.ねぎし

医療法人社団 心の絆

認知症専門病院 蓮田よつば病院

携帯からも当院のホームページにアクセスできます→



私たちは、大切な人に自信をもってすすめられる病院をつくりたい

よつば通信 2月号

発行日 令和5年2月1日

令和5年を迎えて、1か月が過ぎました。新型コロナウイルスの収束の兆しがみえない中、各ご家庭、医療機関、介護施設と大変なご苦勞をされていると思います。当院でも感染対策に注力しながら日々の業務を行っております。たくさんのご協力をいただきありがとうございます。

さて昨年、地域医療相談室は、第11回認知症予防学会学術集会福岡大会におきまして「認知症版回復期病棟を目指して」を学会発表させていただきました。入院患者様の早期退院をテーマに、3年前から各部署と連携して、早期退院に取り組んでまいりました。患者様が治療の場から、生活の場へ早く帰れるようにと各部署と連携して取り組んだ結果、3年前に比べて平均で約100日入院期間が短くなってきております。生活の中で困っている、苦しんでいる患者様、家族様へのご対応は待ったなしです。

地域の皆様が安心して過ごせるよう、地域医療相談室では病院理念の「大切な人に自信をもってすすめられる病院をつくりたい」を実現できるよう、取り組んでまいりたいと思います。何かお困りの際はご相談いただけましたらお力になれるように尽力いたします。

地域医療相談室
室長 金子 淳一

外来案内

診療科目	月	火	水	木	金	土・日
午前 認知症外来	鈴木	非常勤医師	非常勤医師	鈴木	鈴木or非常勤医師(隔週)	休診
	非常勤医師		非常勤医師(2/8のみ)			
一般内科	窪山・永川	永川	窪山	窪山	窪山・永川	
午後(新患のみ)	※適宜対応	非常勤医師	※適宜対応	非常勤医師	※適宜対応	

※内科受診に関しては、他院での受診をお願いさせていただく場合がございます。

受付時間	診療時間	面会時間
午前	午後	午前
午後	午前	午後
8:45~11:30	13:00~15:00	9:00~12:00
		14:00~17:00
		現在 面会制限中※

※入院患者様への面会は木・土の予約制となっております。ご了承ください。

病院方針

- ・身体拘束は原則おこないません
- ・薬物は適正に使用します
- ・言語的抑制を最小限にします
- ・地域と共に考え貢献します

～初めて外来を受診される方～

お電話での予約が必要になります
・紹介状
・お薬手帳をご持参ください。
予約時間の変更等につきましては、13時以降に外来にお電話下さい
○休診日○
土曜・日曜・祝日は休診になります

蓮田市 毎月第一土曜日 10:00~12:00
認知症カフェ
はすカフェ
蓮田よつば病院 1Fフロアにて実施

～よつばご飯～



※写真は職員食になります。

年末年始はどこのご家庭でもたくさんのご馳走が食卓に並ぶのではないのでしょうか。当院でも、患者様ができる限り普段通りに近い生活ができるよう、年末年始には豪華な食事を提供させていただいております。今回は大晦日の献立を紹介させていただきます。

献立
主食:年越しそば
副菜:胡瓜と春雨の梅和え
副菜:春巻き
デザート:抹茶水ようかん

栄養価
エネルギー:682kcal
たんぱく質:22.2g 脂質:12.0g
炭水化物:113.9g 塩分:4.3g
※行事食につき、栄養価は若干高めになっております

管理栄養士 水野俊

蓮田よつば病院 当院は認知症専門の病院です
〒349-0114 埼玉県蓮田市馬込2163番地
電話:048-765-7777

医療法人社団 心の絆
よつば訪問看護リハビリステーション
電話:048-796-5157

蓮田よつば病院
ディケアわかば

栄養科の取り組み

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2021に基づく 当院の食事の分類について

当院の栄養科では、認知症の患者様の栄養管理を行う上で一番大事なことは「食べてもらうこと」だと考えております。今回は、食べてもらう上で大事なポイントである、患者様の食形態についてお話させていただきます。食形態の指標として、現在では日本摂食・嚥下リハビリテーション学会調整食分類2021(以下、学会分類2021)という物が用いられます。この指標では0t・0j・1j・2・3・4といったコード番号に分類され、数字が大きくなるにつれて形態が固くなるようになっています。それぞれを簡単に説明すると以下のようになります。

0j...たんぱく質含有量が少ないゼリー状のもの

1j...やや硬さのあるゼリー・ムースなど

2...ピューレやペースト状で、スプーンですくって食べられる程度にまとまりのあるもの

3...形はあるが、舌と口蓋の間でつぶせる程度の硬さのもの

当院では現在、常食(普通食)、一口大刻み食、ソフト食、ペースト食、ゼリー食(ブリックゼリー・ハイカロリーゼリー)に分けて提供していますが、それぞれを上記の学会分類2021に当てはめると、下の図1のようになります(普通食はこの分類には当てはまりませんので除外します)。

例えば、長い間食事を取れなかった患者様が居た場合、いきなり普通食から始めるのではなく、コード0jから徐々に形態を上げていきます。そうすることで誤嚥性肺炎のリスクを軽減する事が出来、更には咀嚼・嚥下の訓練を行いつつ患者様の状態にあった食形態を判断することが可能となります。逆に、普通食だった患者様で嚙む力が弱くなって来たという場合にはコード4から順に下げていき、最も食べやすい形態を判断していきます。

このようにして、患者様に最適な食形態を日々検討し、患者様が食事を楽しみながら認知症の治療に専念できる環境づくりのお手伝いをさせて頂いております。

栄養科長 水野俊

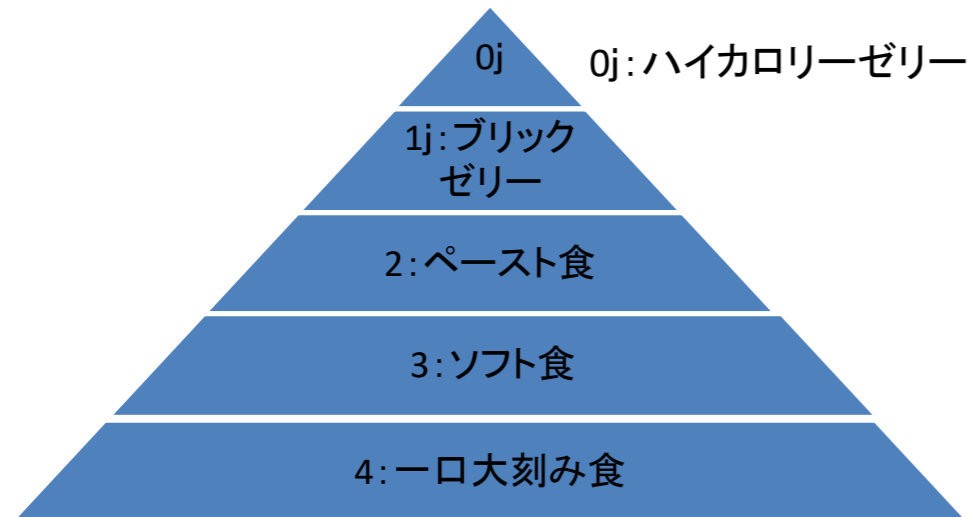


図1. 学会分類2021に当てはめた当院の食形態一覧

看護部の取り組み

1月の勉強会は「見守りと監視の違い」について行いました。

「見守り」とは

患者様の身体・精神・疾病等の日頃の状態を把握したうえで、患者様がどういった行動をされるか予測し、日常生活の充実感を引き出せるよう援助していくこと。

「監視とは」

患者様を見ているという点では「見守り」と同じだが、見られる側がそれによって安心できれば「見守り」、不快に感じれば「監視」となる。

よって、何か問題があっては困ると、介護者主体になって「危ないから立たないで!」「一人で歩かないで!」と言う声掛けをしながら、腕を組んで立っている状況は「監視」になります。

認知症はコミュニケーションの病気と言われています。患者様は言葉にして自分の要求を相手に伝えることが得意ではありません。「行動」「表情」「雰囲気」「ちょっとした言葉」などから「何を望まれているのか」を察して要求にこたえることが必要です。

・急に立ち上がった...

・今日は落ち着きがないな...

・座っているけど、傾いているな...

・今日は眠っていることが多いな...

このようなサインの裏にはどのような要求があるのか考えてみましょう。

トイレに行きたいのかな?

昨夜は眠れなかったのかな?

体調がすぐれないのかな?



「相手が何を望んでいるのか」「認知症の方を取り巻く環境に危険はないのか」といったことに気付けるよう観察力を養い先読みができる冷静沈着な心が必要です。

認知症看護・ケアで必要なことは、

「思いやる心・寄り添う心・観る心・聴く心・考える心」

いつもニコニコしながら側にいてくれる安心できる人、と患者様が感じ穏やかな生活が続けられるよう、見守りながら援助していきたいと思っております。

3階病棟介護副主任 折原美佐子

～よつば病院作業療法風景～

コーヒー療法



風船バレー



今月の予定

○誕生会 2階・3階病棟
随時おこないます

感染症対策のためはすカフェ、
認知症予防教室、クラブ活動
等を中止させていただきます。
ご了承ください。